

# 自由民主党 経済好循環実現委員会

～ 経済好循環へ向けた有識者ヒヤリング ～

平成27年4月2日



一般社団法人 全国旅行業協会

# 1. (一社)全国旅行業協会の概要

一般社団法人全国旅行業協会  
(ANTA : ALL NIPPON TRAVEL AGENTS ASSOCIATION)

## ① 協会の概要

- ・設立認可 昭和41年(1966)2月22日
- ・会員数 5,385社(平成27年3月1日現在)  
(内訳:第1種55社、第2種2,400社、第3種2,903社、地域限定27社)
- ・会長 二階 俊博
- ・副会長 川崎 紘、近藤 幸二、加藤 正明
- ・本部事務局 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-20 田中山ビル5階
- ・地方組織 全国47都道府県に支部を置く

## ② 事業

旅行業法第22条の2に基づく指定協会として、法定業務(苦情処理、研修、弁済保証、社員指導、調査・広報)、指定業務(国内旅行業務取扱管理者試験の事務代行)並びに一般業務(知識の普及、業務の改善等)を実施。

## 2. 国内観光の振興

### (1) ANTA主催「国内観光活性化フォーラム」の開催

#### ～ 会員活動の活性化と地域の観光振興 ～

- 第10回記念大会 国内観光活性化フォーラムin和歌山の開催  
平成26(2014)年2月11日 和歌山県 和歌山市 約1万3千人が参加  
・パネルディスカッション 「観光振興と未来創造」

第一部「観光を巡る現状と課題」第二部「観光の発展による未来の創造」

- ・観光立国和歌山宣言 フォーラム締めくりに二階会長から久保観光庁長官に手交された。

- ・地旅博覧会in和歌山 地域振興を目的に地元の協力で企画した旅行商品である「地旅」を通じて、その土地ならではの風土、食、文化、人との触れ合いを体感することを目的としたもの。



(主催者挨拶) 二階俊博会長



(来賓挨拶) 久保成人観光庁長官



(歓迎挨拶) 仁坂吉伸和歌山県知事



雑賀・根来九度山鉄砲隊による火縄銃演武



第1回地旅博覧会  
in和歌山会場



和歌山の特産物である  
有田みかんが配られた



北海道旅行業組合ブース

- 第11回 平成28(2016)年3月 鹿児島県 鹿児島市で開催予定

第10回国内観光活性化フォーラム in 和歌山

## 観光立国和歌山宣言

東日本大震災から3年という節目を迎え、訪日外国人旅行者1,000万人の目標を史上初めて達成したこの時期に、全国47都道府県の5,500社の全国旅行業協会会員の代表、旅行・観光産業の代表、地元和歌山県の代表、韓国、中国、ウズベキスタンの等のアジア諸国の代表など観光振興に理解の深い関係者が、和歌山の地に一堂に会して「第10回国内観光活性化フォーラム in 和歌山」を盛大に開催することができました。

第10回目の記念大会となった今回のフォーラムでは、「観光振興と未来の創造」をテーマとして我が国及びアジア諸国の観光関係の代表者によるシンポジウムを開催し、また、(株)全旅による「地旅博覧会」を同時に開催することによって、魅力豊かな地域の観光資源を地域の活性化に最大限に生かすことの重要性について理解を深めるとともに、1万人を上回る来場者に国内観光の魅力を体感していただくことができました。

私たち全国旅行業協会は、「第10回国内観光活性化フォーラム in 和歌山」の開催にあたり、次の通り宣言します。

- 一 地域振興に果たす観光の役割に大きな期待が寄せられています。私たちは、全国の会員がこれまで培ってきた経験と英知を結集して、一九七〇年になって日本各地の観光の魅力を全国に発信し、国内観光の活性化に努め、楽しい旅の力で日本の笑顔と元氣を取り戻します。
- 一 地元自治体をはじめとする観光関係者と一致協力して、歴史や文化の発掘に努め、地域の観光資源を磨き、魅力ある「着地型旅行」の企画と推進により、日本各地の観光振興を支援します。
- 一 観光産業の次代の発展を期するため、若い世代の育成に全力を尽くします。
- 一 “平和産業”である観光を振興するため、アジアをはじめとする諸外国との双方向の友好・交流を積極的に推進します。
- 一 「東北・東日本観光復興支援キャンペーン」に5,500社の全会員が全力で取り組み、東北・東日本の観光復興に引き続き最大限の協力を行います。
- 一 関西国際空港を活用した国際交流の発展と地域の交流を通じて関西の観光需要を高めます。
- 一 国際観光交流の発展のためには観光地のトイレの整備が極めて重要であり、この際、関係者のご協力により目的達成に努めます。

平成26年2月11日

一般社団法人 全国旅行業協会

会長 二階俊博



# 2. 国内観光の振興

## (2) 東北東日本の観光復興支援キャンペーン活動

- ANTA東日本復興支援会議の開催  
(平成23年9月26日宮城県秋保温泉)  
東日本大震災の風評被害防止対策と観光復興支援の決議
- 観光復興支援ポスター(「がんばろう東北!がんばろう東日本!」)の作成  
・全国各支部、行政機関等に送付し、東日本への送客を支援  
・JR東日本首都圏内各駅での掲示
- ANTA通常総会懇親会で東北産食材の使用、福島県産もち米で餅つきを行う
- 被災地復興支援に向けた「ANTA 東北観光応援ツアー」の実施(平成24年度)  
東北6県・隣接3県の在住者を対象に1万人の旅行代金の一部を助成
- 震災復興支援「花の種(ヒマワリ・ナデシコ・パンジー)」の配布



東北観光博

「ANTA 東北観光博応援ツアー」参加のご案内

～あなたの旅で東北観光復興を応援しよう!～

東日本大震災の被災地に復興を促された東北の観光復興を支援するため、東北観光博に協力し、東日本大震災による被災地の風評被害の除去と、東北6県及び隣接3県(関東、北陸、中国、四国)に在住、在勤、在学の方を対象とした各県のANTA会員旅行業者が実施する東北観光博の28ノーンへの応援ツアー(東日本大震災被災地復興支援基金助成)の参加者(1,000人)に対して、当協会が旅行代金の一部を助成します。ANTA東北観光博応援ツアーによるご参加ください!

- 1 対象：社団法人 全国旅行業協会(ANTA)
- 2 開催旅行：ANTA会員が実施する東北観光博応援ツアー
- 3 実施期間：平成24年7月1日～12月31日まで(完了した旅行(団体旅行や予約旅行)は、申込後2週間以内に行ってください)
- 4 参加対象者：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、茨城県、千葉県に在住、在勤、在学している方で、これら地域のANTA会員旅行業者が実施するANTA東北観光博応援ツアーへの参加者
- 5 助成額：1人1泊あたり1,000円(1泊1日分を助成します) 1泊2日1人1泊あたり1,000円
- 6 申請方法：応援ツアーへの申し込みの際に、在日、在勤、在学を証明する書類をご提出ください。申請書類に記入のない場合は、別途郵送でお送りください(旅行代金の申請はできません)。

協賛：東日本大震災復興支援キャンペーン実行委員会  
全国旅行業協会 ANTA 観光博

ツアー参加者、主催のアンケートにご協力をお願いします。

## (3) 沖縄本土復帰40周年記念事業(2012年9月)

- 社団法人全国旅行業協会植樹式
- 常務理事会・全国支部長会議の開催



沖縄コンベンションセンターにて

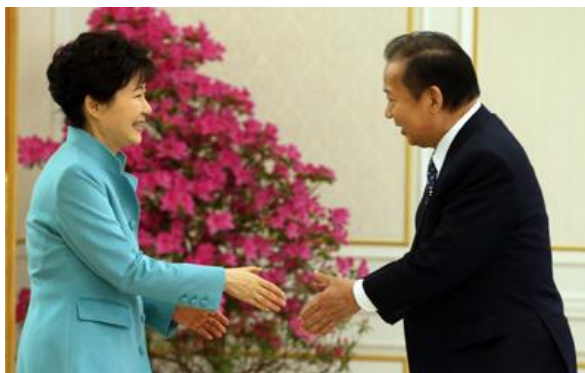
# 3. 双方向の国際交流促進



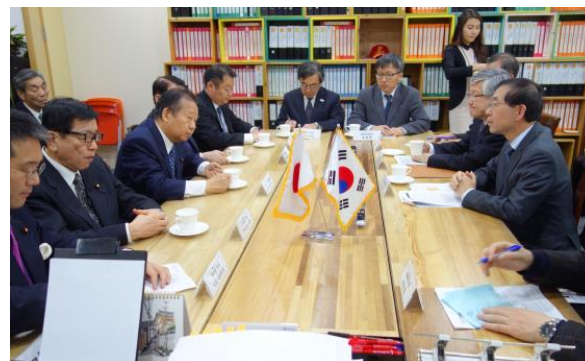
## (1) 2015年2月14日 全国旅行業協会代表団の韓国ソウル訪問

- ・2015年の日韓国交正常化50周年を記念し、一般社団法人全国旅行業協会（ANTA）は2月14日に、総勢1400人の日本からの代表団（団長 二階俊博会長）で韓国ソウルを訪問。
- ・代表団は、国会議員、観光分野の国の関係機関、知事、市長など自治体関係者、観光・運輸関係団体・企業の代表のご来賓とともに、全国47都道府県のANTA支部代表・会員企業・一般旅行者などで構成。
- ・滞在中、韓国の観光関係者との意見交換やソウル以外の他を訪問するなど積極的な交流を展開。本事業は、日韓国交正常化50周年記念事業の第1号に認定された。

①二階会長の朴槿恵大統領との会談  
(2月13日)



②訪問団代表のソウル特別市長訪問  
(2月13日)



# 3. 双方向の国際交流促進



韓国

③日韓観光交流拡大会議の開催(2月14日午後) ~ 観光交流拡大のための宣言を採択  
 全国旅行業協会(ANTA)と韓国観光公社(KTO)の共催でソウル市内のホテルにおいて「日韓観光交流拡大会議」を開催した。会議において、二階会長と韓国観光公社の卞秋錫(ビョン・チュソク)社長により「日韓観光交流拡大宣言」の調印式を行った。

## 観光交流拡大会議 in ソウル(2月14日)



ANTA二階俊博会長 主催者挨拶



卞秋錫韓国観光公社社長 主催者挨拶



申珥秀 元駐日韓国大使 講演



日韓国交正常化50周年記念  
 日韓観光交流拡大宣言調印

④日韓友好観光交流の夕べ(2月14日夕方)

日本からの代表団を招き、韓国旅行業協会主催の「日韓友好観光交流の夕べ」が開催された。



朴三求ムホアジアグループ会長 歓迎挨拶



熊本県伝統芸能ハイヤ節の披露



歌手金蓮子(キムヨンジャ)さん祝賀公演

## 日韓観光交流拡大宣言

日韓国交正常化50周年記念 日韓観光交流拡大会議inソウル

日韓両国間の国交正常化50周年の記念すべき年を迎えるに当たり、一般社団法人全国旅行業協会（ANTA）及び韓国観光公社（KTO）は、「ANTA日韓観光交流拡大会議inソウル」において、日韓の友好の絆を深め、両国間の交流拡大を促進するため、次の通り宣言する。

1. 両国の観光当局及び観光関係団体・企業と密接に連携して、最大の平和産業である観光が先頭に立って、双方向の友好・交流を積極的に推進する。
2. 両国で開催されるイベント、博覧会、文化・芸術交流、青少年交流、スポーツ交流、自治体交流など、様々な交流事業に積極的に協力し、双方向の観光交流拡大を促進する。
3. 特に、両国間観光交流を一層拡大するためには地方間交流が最も重要であるという認識のもと、地方都市で開催される民間交流と連携して両国地方交流活性化事業を積極的に推進し、地方の観光資源の魅力を伝え、地域経済の活性化に貢献する。
4. 2018年ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック及び2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向け、情報を共有し、双方向及び諸外国からの来訪を促進する。

2015年2月14日



一般社団法人全国旅行業協会  
ALL NATION TRAVEL INDUSTRY ASSOCIATION



韓国観光公社  
KOREA TOURISM ORGANIZATION

会長 二階俊博

社長 卞 秋錫



# 3. 双方向の国際交流促進



## (2) NHK交響楽団のソウル公演 (2014年6月1日) ~ 日韓協力の文化交流をソウルで開催



芸術の殿堂コンサートホール



公演ポスター

- ・共催  
 韓国:クムホアジアナ文化財団・中央日報  
 日本:国際交流基金
- ・日本から二階俊博衆議院議員、河村建夫日韓友好議連幹事長をはじめとする国会議員、ANTA役員、支部長など250人が参加。
- ・2500人を収容するホールは地元ソウル市民で満席になった。
- 《指揮》広上淳一氏 G線上のアリア
- 《第1部》プロコフィエフ ピアノ協奏曲第3番  
 ピアノ:ソン・ヨルムさん
- 《第2部》マーラー 交響曲第4番  
 ソプラノ:ローザ・フェオーラさん

## (3) 2012韓国麗水世界博覧会 ANTA 代表団の派遣 (7月1日~3日)



5月11日 開幕セレモニー



日本館開館式のテープカットに登壇する二階会長



会場を視察する二階会長と姜博覧会組織委員長



旅客船「ふじ丸」で会場訪問

# 3. 双方向の国際交流促進



## (1) 日中観光文化交流団の訪中(2015年5月)

- 1. 名称: 日中観光文化交流団
- 2. 主旨
  - ・2014年11月に上海で開催された太田昭宏国土交通大臣と李金早国家旅遊局長の会談において、2015年～2016年の2年間に日中双方の交流拡大に向けた取組を具体化していくことが合意された。
  - ・このような政府レベルの動きを受け、観光交流復活の気運を盛り上げ、継続的展開につなげるために、中国側の全面的協力の下、大型の訪中団を派遣することになった。
  - ・日本の観光関係者、自治体、経済界、文化等幅広い関係者の参加を募り、団を編成する予定。
- 3. 基本日程(予定): 5月22日(金) 各地から北京へ  
商談会開催(日本の観光関係者と中国側旅行会社)  
5月23日(土) 北京市内参観や交流事業参加  
訪日トラベルフェア  
「日中観光交流の夕べ(仮称)」  
5月24日(日) 訪日トラベルフェア  
中国各地(大連、河北省など)および日本各地へ
- 4. 主催: 日中観光文化交流団実行委員会
  - (一般社団法人日本旅行業協会会長 田川博己)
  - (一般社団法人全国旅行業協会会長 衆議院議員 二階俊博)
  - (公益社団法人日本観光振興協会会長 山口範雄)
- 5. 後援(予定): 国土交通省観光庁、日本政府観光局(JNTO)、在中華人民共和国日本国大使館  
一般社団法人日本経済団体連合会、中国国家旅遊局、中華人民共和国駐日本国大使館
- 6. 主要行事: 「日中観光交流の夕べ」(仮称) 2015年5月23日(土)夕刻
  - ・日本側3000名参加予定、両国VIPによる歓迎あいさつ、エキシビション等



「日中観光文化交流団」記者会見(2月25日)

# 3. 双方向の国際交流促進



## (2)「弘法大師・空海を偲ぶ日中交流 ANTA 訪問団」の訪中(2012年8月)

日中国交正常化40周年記念  
中国陝西省西安市の青龍寺他での記念行事の開催



二階会長による挨拶(日中友好交流会)



唐家璇 中日友好協会会長  
による挨拶(日中友好交流会)



日中友好交流会会場



弘法大師・空海を偲ぶ法会及び祈願



大賀蓮の植付け式



銀杏と百日紅の植樹式



日中観光交流の夕べ  
林幹雄副団長による挨拶と乾杯

# 4. 訪日外国人旅行者2千万人を目指すための諸課題

## ● 日本人国内旅行と訪日外国人観光の共存共栄

観光は「のこぎり」のように行ったり来たりの交流。日本人の観光振興も同時に推進。

### (1) 日本人国内旅行・海外旅行の振興

- 日本の観光市場規模 23.6兆円。うち 日本人国内宿泊旅行67%、国内日帰旅行20%、合計87%を占める。
- 日本人の国内観光・海外旅行の振興施策を同時に展開して、日本人の旅行の活性化が必要。  
→ 祝日三連休・連続休暇取得

### (2) 慢性的な貸切バス不足対策が必要

- 訪日外国人もバスで移動。国内旅行の貸切バスの確保の点で、日本人旅行と競合する。
- 日本人の日帰り・国内宿泊旅行の貸切バスの確保ができないと旅行商品の造成ができない。

### (3) 国民の外国人観光客受入意識の醸成

- 国の政策で、各地を訪れる外国人観光客の団体が急激に増加し、観光地の渋滞、旅先でのマナー問題が発生。
- 外国人リピーターが地方に入るようになる。地域コミュニティの理解がないと「ノー」のサインが出かねない。
- 住んで良しの観光地での外国人観光客の受入れ意識の醸成が必要。
- 地方自治体、観光振興団体、地元旅行会社が連携して、受入れのための知恵を発揮することが必要。